

演題名	身体抑制をしない！させない！～抑制0への取り組み～		
施設名	いわき湯本病院	発表者(職種)	ひるた あきひろ 蛭田 晃弘 (看護師)
チーム名	チームZERO		
取り組種別	問題解決型		
分類	①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの		
改善しようとした問題課題	いわき湯本病院では長年、身体抑制を患者さんに施すことで医療安全を担保するという風土が定着していた。患者さんの身体抑制を解除するために様々な対策を実施してきたが、最終的にゼロにすることはできずにいたが、今回は徹底した分析と対策を実施し抑制ゼロをめざしたもの。		
改善の指標とその目標値	(指 標)身体抑制患者数、身体抑制患者発生数、職員の抑制に対する意識 (目標値)身体抑制患者数⇒0人 身体抑制患者発生数⇒0人 職員の抑制を発生させない取組への意識⇒100%		
実施した対策	抑制をチーム全員の目で確かめ対策を講じる抑制ラウンドの実施 多職種協働にて専門の見地から抑制を見直す抑制カンファレンスの実施 抑制をより客観的な視点で俯瞰するための抑制に関する寸劇の実施 抑制に対する知識を醸成しつつ、抑制を院内で取り組んでいることを周知するための抑制委員会便りの発行		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)平成29年3月時点 身体抑制患者数10名 身体抑制患者発生数5件 職員の抑制を発生させない取組への意識63% (実施後)平成29年11月時点 身体抑制患者数0名 身体抑制患者発生数0件 職員の抑制を発生させない取組への意識83%		
歯止めと標準化	身体抑制マニュアルの刷新と再周知 定期的な抑制に関するアンケートの実施と公表 身体抑制カンファレンスの内容を委員会で適宜フィードバック 身体抑制便りの定期発行(2か月に1回) 身体抑制に関する研修を定期開催(1年に2回)		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 小針 正人 医師 2 柿田 章 医師 3 渡辺 静 看護師 4 蛭田 晃弘 看護師 5 佐藤 夏江 看護師 6 布施 由美 看護師 7 山本 日出男 介護福祉士 8 室井 知美 介護福祉士 9 金澤 幸平 介護福祉士 10 江尻 潤一 介護福祉士 11 武田 裕吾 理学療法士 12 荻津 明 理学療法士 13 阿部 みゆき 事務 14 若林 陽盛 事務
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		
活動期間	平成 29 年 4 月 ～ 12 月		
リーダー名 (職種)	渡辺 静 (看護師)		
活動回数	9 回		

【対策の立案と実施】

	WHAT	WHY	WHO	WHEN	WHERE	HOW
不安な気持ち	身体抑制に替わる看護手法を	身体抑制解除のために	抑制委員会と病棟スタッフが	5月から1か月に2回	病室で	抑制ラウンドを行う
				週1回	NSステーションで	抑制カンファレンスを行う
意識の方向性	身体抑制が“なぜ”いけないのかを	全職員の意識を向上させるために	抑制委員会が	7月中に	会議室で	寸劇を行う
知識不足	抑制・抑制解除の知識を	職員全体に広め周知してもらうために	抑制委員会が	2か月に1回	会議室で	抑制委員会便りを発行する



抑制ラウンドの実施



抑制カンファレンスの実施



寸劇の実施



身体抑制便りの発行



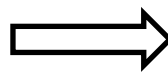
抑制持込患者さんの解除徹底

【効果の確認】

(中間評価時/平成29年6月末)

身体抑制数3件

⇒目標ゼロには届かず、再チャレンジとした

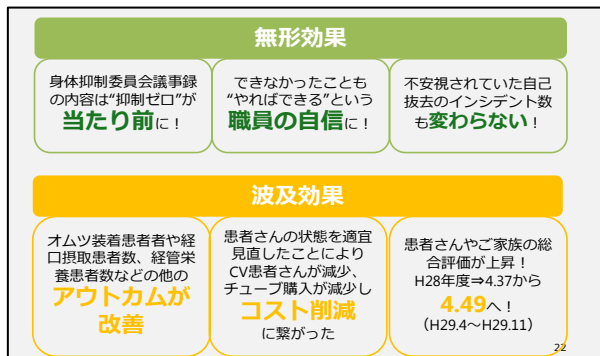
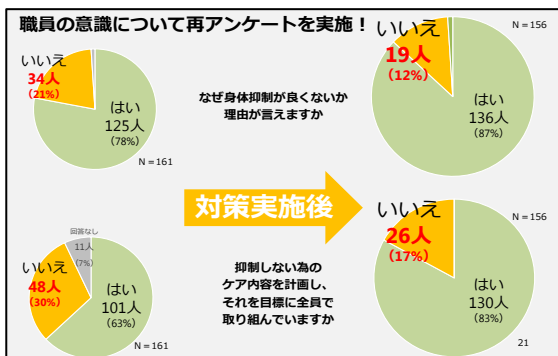


まずは抑制を外すところからスタートしてみても、という院長の提案を受け、医師自らが抑制を解除、看護師やPTと連携し、身体抑制患者数**ゼロ**を達成！！



ゼロを継続するために

平成29年7月19日には全患者さんの身体抑制は解除され、抑制ゼロを達成した。一時的な解除とならないよう、CV抜去の可能性がある患者さんや体動が激しい患者さんへの追加対策を都度実施し、平成30年1月に至るまでゼロを継続中である。



【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする	チェック
標準化	身体抑制マニュアルを	身体抑制発生を予防するために	身体抑制委員会メンバーが	平成29年度中に	身体抑制委員会にて	見直して全部署へ配布	身体抑制委員会
	抑制に関する意識調査を	職員の意識を定観測するために	身体抑制委員会メンバーが	年1回	身体抑制委員会にて	各部署で	身体抑制委員会
管理	抑制カンファレンスの実施状況を	身体抑制発生を予防するために	チームリーダーが	月に1回	身体抑制委員会にて	開催状況を報告	身体抑制委員会
	身体抑制便りを	抑制予防への意識を常に持ってもらうために	渡邊が	2か月に1回	全部署に	作成して配付する	身体抑制委員会
教育	身体抑制に関する情報を	抑制予防への意識を常に持ってもらうために	身体抑制委員会メンバーが	年に2回	イブニングセミナーで	身体抑制についての研修	身体抑制委員会

【反省と今後の進め方】

ステップ	良かった点	悪かった点
テーマ選定	長年、当院で課題となっていたものに取り組んだ	目的をはっきりさせるために時間がかかった
現状把握	全ての職員の意識を把握することができた	本音を知るまでに時間がかかった
要因分析	意見を言い尽くすことができた	-
対策立案	チームで一丸となって立案することができた	それぞれの対策について具体化することが困難だった
対策実施	多くの対策に取り組むことができていた	-
効果の確認	身体抑制をゼロにできた発生をさせていない	まだ職員の意識は統一化されていない現状がある
標準化と管理の定着	今後も継続できる内容となった	-

【まとめ】

7月に身体抑制0を達成した。
 抑制解除のためのカンファレンスも、現在は抑制しないことが前提になっている。
 委員会の役割も抑制解除から抑制をしないための情報のとりまとめと教育、意識の維持へと変化している。
 身体抑制解除を実現し、患者が生き活きとした姿を見せる事が多くなった。
 スタッフはやりがいを感じるようになり、患者の尊厳を守る事について深く考えるようになった。